

目次	CEOメッセージ	CSOメッセージ	コーポレートパーパス / ESG特集	日産のサステナビリティ	日産のSDGsへの貢献	ルノー・日産自動車・三菱自動車のアライアンス
環境	社会性	ガバナンス	ESGデータ集	本レポートの編集方針	GRI内容索引	投資家向け索引

交通安全

GRI103-1 GRI103-2

交通安全の方針・考え方

クルマが広く普及したことで私たちの暮らしは大きく変わり、多くの人々がモビリティによる自由や利便性、そして運転する楽しさを享受してきました。近年の自動車業界の技術革新はめざましく、自動運転やそれを構成する運転支援技術は急速に進歩しつつあります。高齢化、高度な都市化の進行など、世界は大きな転換期を迎えていますが、クルマの技術革新は、都市における渋滞の解消や高齢者が安全で円滑に移動できる社会の実現など、さまざまな課題の解決に貢献することが期待されています。

日産は“走る楽しさと豊かさ”を体現するクルマづくりに取り組むとともに、リアルワールド（現実の世の中）における高い安全性を最優先に考えています。交通事故の原因の9割以上が人為的ミスといわれる中、日産が目指しているのは、日産車がかかわる交通事故の死者数を実質ゼロにする「ゼロ・フェイタリティ」です。この目標の実現に向けて、自動運転技術の搭載をはじめとするクルマそのものの安全性向上はもちろん、ドライバーや歩行者などに安全意識を高めてもらうための啓発活動、さらにはより安全で快適なモビリティ社会の構築に幅広く取り組んでいます。

GRI103-2

交通安全のマネジメント

日産車がかかわる交通事故の死者数を実質ゼロにする「ゼロ・フェイタリティ」を目標として掲げる日産は、2004年から開発部門を中心に、クルマが人を守るという独自のコンセプト「セーフティ・シールド」を基本とした技術開発に取り組んできました。乗員が危険に近づかないようにする技術、衝突を防ぐ技術、万が一衝突が避けられないときも被害を軽減する技術を開発し、すでに多くの車種に搭載しています。現在は、こうした予防安全技術からさらに進化させた自動運転技術の実用化に取り組んでいます。

また、人々に交通安全への考え方を理解してもらうため、安全意識の向上に向けた啓発活動、ドライバーの運転技術向上を支援する活動にも注力しています。

さらに、官公庁、大学、他企業と連携しながら、より安全で快適なモビリティ社会の実現を目指していきます。

目次	CEOメッセージ	CSOメッセージ	コーポレートパーパス / ESG特集	日産のサステナビリティ	日産のSDGsへの貢献	ルノー・日産自動車・三菱自動車のアライアンス
環境	社会性	ガバナンス	ESGデータ集	本レポートの編集方針	GRI内容索引	投資家向け索引

交通安全実現への活動目標

安全に対する日産の方針は、リアルワールド（現実の世の中）における安全性を追求することであり、目指しているのは「交通事故のない社会」です。

日本の2019年の交通事故による死者数は3,215人と2018年より317人減少しましたが、なおも3,000人以上が交通事故で亡くなっています。また世界保健機関（WHO：World Health Organization）は、世界全体で毎年約135万人が交通事故で命を落としており、今後緊急に対策をとらなければ2030年までには死亡原因の7位になると予測しています。

日産は、日産車がかかわる死者数を2015年までに1995年比で半減させることを目指し、日本、米国、英国で達成。現在は、2020年までに日本、米国、英国でさらに半減させるという高い目標に向かって活動を続けており、死者数を実質ゼロにすることが日産の究極の目標です。

交通事故を低減させ、日産の掲げた目標「ゼロ・フェイタリティ」を実現するには、クルマの安全技術を進化させ、その機能を多くのクルマに適用・拡大することはもちろん、人や交通環境も含む総合的な取り組みが必要です。真に安全なクルマ社会の構築に貢献するため、日産は「クルマ」「人」「社会」という3つの階層に取り組む「トリプルレイヤードアプローチ」を推進しています。

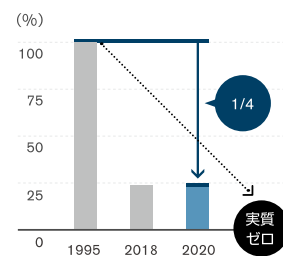
日産の究極の目標：

日産車のかかわる死者数を実質ゼロにする

日産の取り組み
「クルマ」「人」「社会」という3つの階層に取り組む
トリプルレイヤードアプローチ

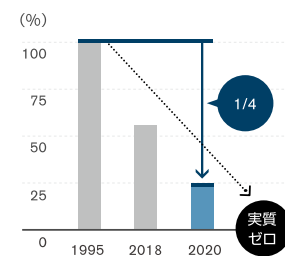


日本 日産車1万台当たりの死者数



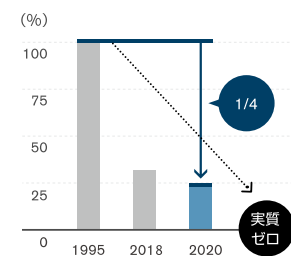
出所：公益財団法人交通事故総合分析センター

米国 日産車1万台当たりの死者数



出所：Fatality Analysis Reporting System

英国 日産車1万台当たりの死者数



出所：STATS19 data, U.K. Department for Transport

目次	CEOメッセージ	CSOメッセージ	コーポレートパーパス / ESG特集	日産のサステナビリティ	日産のSDGsへの貢献	ルノー・日産自動車・三菱自動車のアライアンス
環境	社会性	ガバナンス	ESGデータ集	本レポートの編集方針	GRI内容索引	投資家向け索引

GRI103-3 GRI416-1 GRI417-1

交通安全への取り組み

クルマ：安全技術開発への取り組み

お客さまに安心して運転を楽しんでいただくために、日産ではすべてのブランドの車両が安全に関する法規制などを遵守するのはもちろんのこと、「セーフティ・シールド」という独自の考え方のもと、できるだけ乗員を危険に近づけないようにクルマが支援する技術開発を進めています。

クルマが人を守るという独自のコンセプト「セーフティ・シールド」とは、クルマが置かれている状態を「危険が顕在化していない」「危険が顕在化している」「衝突するかもしれない」「衝突が避けられない」「衝突」「衝突後」の6段階に分けて捉え、各状況に応じてクルマが人を守るさまざまな技術の開発を進めていくという考え方です。日産はこのコンセプトを基本に、安全技術の開発を進めています。

日産の安全技術の拡充と獲得した外部評価

2015年1月に「インテリジェント エマージェンシーブレーキ」の採用車種を拡大し、2015年度末には、日本で発売している電気自動車、商用車を含むほぼすべてのカテゴリーで搭載を完了するとともに、主要車種への標準装備も完了しました。北米では、「パッシングファインダー」「アルティマ」「ローグ」などのモデルに標準装備、欧州では「ジューク」「エクストレイル」「キャシュカイ」「マイクラ」などの主要車種に採用しています。

また、各地域で行われている公的機関および政府による試験において、高い安全評価を獲得しています。特に日本では、2019年度より人に対する衝突被害軽減ブレーキの試験（夜間）に街灯のない道路を想定した厳しい条件を追加したJNCAPの予防安全性能評価において「セレナ」は満点を獲得、「デイズ」は軽自動車で最高得点を獲得しました。また2018年度より開始された国土交通省による衝突被害軽減ブレーキの性能認定制度においても認定車種を増やし、2019年度までに13車種の「インテリジェント エマージェンシーブレーキ」が認定を受けました。

主な外部安全評価結果(2019年評価分)

地域	外部評価	車種	レーティング	
日本	JNCAP ^{*1}	衝突安全性能評価	「デイズ」	5★(最高評価)
		予防安全性能評価	「デイズ(軽で最高得点)」「セレナ(満点)」	ASV+++ (最高評価)
		事故自動通報システム機能評価	「デイズ」	SOS+(車載型)
米国	NCAP ^{*2}	インフィニティ「QX60」インフィニティ「QX50」「ムラーノ」「アルティマ」「パッシングファインダー」「マキシマ」「セントラ」	総合5★ (2020モデルイヤー)	
		インフィニティ「QX80」「アルティマ」「フロントティア(クルーキャブ)」「ローグ」	総合4★ (2020モデルイヤー)	
	IIHS ^{*3}	「マキシマ」	2020 Top Safety Pick+	
		「アルティマ」	2020 Top Safety Pick	
欧州	Euro NCAP	「ジューク」	5★	
中国	C-NCAP	「シルフィ」	5★	

*1 JNCAP : Japan New Car Assessment Program の略。国土交通省と独立行政法人自動車事故対策機構 (NASVA) による自動車アセスメントプログラム

*2 NCAP : New Car Assessment Program の略。米国運輸省道路交通安全局 (NHTSA : National Highway Traffic Safety Administration) の新車アセスメントプログラム

*3 IIHS : Insurance Institute for Highway Safety の略。米国道路安全保険協会

目次	CEOメッセージ	CSOメッセージ	コーポレートパーパス / ESG特集	日産のサステナビリティ	日産のSDGsへの貢献	ルノー・日産自動車・三菱自動車のアライアンス
環境	社会性	ガバナンス	ESGデータ集	本レポートの編集方針	GRI内容索引	投資家向け索引

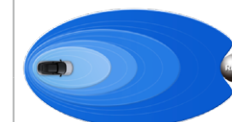
“ぶつからないクルマ”の実現に向けて

日産は、「セーフティ・シールド」のコンセプトのもと、危険予防から危険回避、そして乗員保護までのトータルな観点で、それぞれのシーンで乗員の安全をサポートします。

例えば、通常走行時や駐車時には、ドライバーが視認しにくい周囲の車両や歩行者などをセンサーやカメラがモニターし、いつでも安心して運転できるようにドライバーをサポートします。また、危険な状態になりそうなときも、クルマが瞬時に判断して危険回避をアシストします。

世界中すべての人に最適なモビリティを提供することを目標に掲げている日産は、安全技術を広く迅速に普及させていくことも自動車メーカーとしての使命だと考えています。

危険が顕在化していない ■プロパイロット ■インテリジェントペダル ■インテリジェントクルーズコントロール (全車速追従・ナビ協調機能付) ■アクティブAFS ■インテリジェントアラウンドビューモニター ■インテリジェントルームミラー	いつでも安心して運転できるようドライバーをサポートする技術
危険が顕在化している ■インテリジェントFCW(前方衝突予測警報) ■LDW(車線逸脱警報) ■インテリジェントLI(車線逸脱防止支援システム) ■BSW(後側方車両検知警報) ■インテリジェントBSI(後側方衝突防止支援システム) ■インテリジェントBUI(後退時衝突防止支援システム) ■インテリジェントDA(ぶらつき警報) ■RCTA(後退時車両検知警報)	危険な状態を回避するようドライバーをサポートする技術
衝突するかもしれない ■インテリジェントエマージェンシーブレーキ ■ABS(アンチロックブレーキシステム) ■VDC(ビークルダイナミクスコントロール) ■踏み間違い衝突防止アシスト	
衝突が避けられない ■前席緊急ブレーキ感応型プリクラッシュシートベルト	
衝突 ■ゾーンボディ ■SRSエアバッグシステム ■ポップアップエンジンフード	万が一衝突が避けられないときに被害を最小限にとどめる技術
衝突後 ■エアバッグ展開連動ハザードランプ ■SOSコール(ヘルプネット)	



目次	CEOメッセージ	CSOメッセージ	コーポレートパーパス / ESG特集	日産のサステナビリティ	日産のSDGsへの貢献	ルノー・日産自動車・三菱自動車のアライアンス
環境	社会性	ガバナンス	ESGデータ集	本レポートの編集方針	GRI内容索引	投資家向け索引

最新の安全技術*

*各技術の名称や機能は日本市場のもので

インテリジェント エマージェンシーブレーキ

フロントカメラで前方の車両や歩行者を検知し、衝突の可能性が高まるとメーター内ディスプレイへの警告表示とブザーで注意を喚起し、ドライバーに回避操作を促します。万が一、ドライバーが安全に減速できなかった場合には、システムが緊急ブレーキを作動させて正面衝突を回避、または衝突時の被害を軽減します。

踏み間違い衝突防止アシスト

踏み間違い衝突防止アシストは、ソナーで進行方向にある壁などの障害物を検知し、アクセルペダルが必要以上に踏み込まれたり、衝突する恐れがあるとシステムが判断すると、音と表示でドライバーに警告するとともに、エンジンやモーター出力の抑制とブレーキ制御により、衝突を回避または被害を軽減します。また、日産の事故分析結果では、踏み間違い事故の発生は駐車操作中だけではなく、駐車場以外の道路や走行中の発生も多いことが分かっています。最新の踏み間違い



衝突防止アシストでは、ルームミラー上部に設置したカメラにより前方車両や歩行者の検知も可能とし、低速走行時（時速約25km以下）まで作動範囲を拡大することで、より広いシーンでドライバーをサポートします。

LDW（車線逸脱警報）／インテリジェント LI（車線逸脱防止支援システム）

LDWは、車両が走行車線をはみ出す可能性がある場合、メーター内ディスプレイへの警告表示と警報音で注意を喚起します。さらにインテリジェント LIにより車両を車線中央に戻す力を短時間発生させ、ドライバーにクルマを車線内に戻す操作を促します。

インテリジェント DA（ふらつき警報）

ハンドル操作へのドライバーの注意力が低下していると判断したときに、メーター内のディスプレイ表示とブザーにより、ドライバーに休憩を促します。

インテリジェント ルームミラー

スイッチをオンにすると、ルームミラーが車両後方のカメラによる映像に切り替わり、車両後方をクリアに映し出します。荷物や乗員といった車内の状況や天候に左右されず、また夜間にはカメラの感度をアップさせるなどして、常にクリアな後方視界を提供します。

目次	CEOメッセージ	CSOメッセージ	コーポレートパーパス / ESG特集	日産のサステナビリティ	日産のSDGsへの貢献	ルノー・日産自動車・三菱自動車のアライアンス
環境	社会性	ガバナンス	ESGデータ集	本レポートの編集方針	GRI内容索引	投資家向け索引

インテリジェント アラウンドビューモニター（移動物検知機能付）

車両を真上から見下ろしているかのような映像によって自車と駐車位置の関係を示し、スムーズな駐車をサポートします。また、車両周辺の動く物体を検知してドライバーの注意を喚起することで、車庫入れ時や駐車スペースからの発進時の安全確認をサポートします。

RCTA（後退時車両検知警報）



後退時に後方を横切ろうとする車両に衝突する恐れがあるとき、警報によりドライバーの注意を喚起します。

BSW（後側方車両検知警報）



死角になりやすい隣接レーンの後側方を走行する車両を検知すると、ドライバーに表示で知らせ、さらにウインカーを作動させた場合には、音と表示によりドライバーの注意を喚起します。

運転支援技術：プロパイロットの普及拡大

2016年より製品化したプロパイロットは、アクセル、ブレーキ、ステアリングをシステムが自動で制御し、運転操作を支援します。2019年9月には、高速道路の複数車線をナビゲーションシステムと連動して設定したルートを行き、同一車線内でのハンズオフやルート走行中の分岐や追い越し時の車線変更など、ドライバーの運転操作を幅広く支援する世界初の先進運転支援技術「プロパイロット2.0」を新型「スカイライン」のハイブリッド車に標準装備として搭載しました。2019-2020日本カー・オブ・ザ・イヤーにおいてイノベーション部門賞、RJCカーオブザイヤーにおいてRJCテクノロジーオブザイヤーを受賞するなど高い評価を得ています。

日産は「プロパイロット」の採用をグローバルに、かつ幅広い車種へ広げており、日本では「セレナ」「日産リーフ」「エクストレイル」、米国ではインフィニティ「QX50」「ローグ」「ローグスポーツ」「アルティマ」「日産リーフ」、欧州では「日産リーフ」「キャシュカイ」「エクストレイル」「日産ジューク」、そして中国では「アルティマ」「エクストレイル」「QX50」へ搭載してきました。さらに軽自動車として初めて新型「日産デイズ」に搭載し「日産ルークス」へと採用を拡大し、搭載車の販売台数は2020年3月末までに累計66万台を突破しました。2023年度末までに「プロパイロット」を20車種に搭載し、20の市場に投入する計画を発表しており、「プロパイロット」搭載車の販売台数は2023年度末までに年間150万台になると見込んでいます。

目次	CEOメッセージ	CSOメッセージ	コーポレートパーパス / ESG特集	日産のサステナビリティ	日産のSDGsへの貢献	ルノー・日産自動車・三菱自動車のアライアンス
環境	社会性	ガバナンス	ESGデータ集	本レポートの編集方針	GRI内容索引	投資家向け索引

予防安全技術から自動運転技術へ

事故を回避するために必要な、センシング・認知・判断・操作という基本的な4つのステップを支援する予防安全技術の機能を拡充し、さらなる進化を



自動運転技術の実験車両

指したのが自動運転技術です。日産は、「交通事故ゼロ」の実現には、事故原因の9割以上といわれる人為的ミスをクルマがサポートする自動運転技術が有効であると考えています。

ミリ波レーダー、レーザー

スキャナー、カメラなどのセンサーを搭載した自動運転技術の実験車両は、周囲360度の状況を常に把握。他のクルマに遭遇すると、蓄積された知識データの中から人工知能がその場に応じた適切な行動を選択します。信号機のない交差点への進入や駐車車両の追い越しなど、複雑な運転環境においても正しく状況を認知・判断し、安全な走行を実現しています。

日産はグローバルで自動運転技術の実証実験を実施しており、2019年には英国のHuman Driveプロジェクトにおいて郊外路、高速道路、都市部の道路といった幅広い英国特有の道路環境で、370km走行しました。

高齢化や都市の過密化など多くの課題に直面する社会において、自動運転技

術は事故の大幅な低減に貢献し、多くのドライバーに安心を提供するだけでなく、急速に増加する高齢者にとっては移動機会の拡大にもつながります。日産は、自動運転技術をモビリティに新たな価値をもたらす画期的な技術だと考え、積極的に開発を推進し、実用化を進めています。

目次	CEOメッセージ	CSOメッセージ	コーポレートパーパス / ESG特集	日産のサステナビリティ	日産のSDGsへの貢献	ルノー・日産自動車・三菱自動車のアライアンス
環境	社会性	ガバナンス	ESGデータ集	本レポートの編集方針	GRI内容索引	投資家向け索引

GRI103-3 GRI416-1

人：交通安全活動の推進

より良いモビリティ社会を構築するためには、ドライバーや乗員、歩行者、自転車運転者など多くの人々に交通安全への考え方を理解してもらうことが大切です。日産では安全意識の向上に向けた啓発活動や、ドライバーの運転技術向上を支援する活動にも力を注いでいます。

日本での取り組み

日産は交通安全活動「ハローセーフティキャンペーン」*1の一環として、1日のうちで交通事故発生件数が最も多くなる時間帯が16～18時の夕暮れ時ということから、ヘッドライトの早期点灯をドライバーに促す「おもいやりライト運動」*2に2010年から参画。市民活動を活用した双方向のコミュニケーションによる安全啓発活動を推進しています。

また、運動機能工学を専門とし地域を巻き込み交通安全を推進している、新潟大学の研究室と連携して、2018年に交通安全プロジェクト*3を立ち上げました。子ども、高齢者、公共交通機関が不足し過疎化に悩む人々、訪日外国人など生活・交通弱者に寄り添い、交通死亡事故ゼロ、誰一人取り残さないダイバーシティ交通社会の実現を目指し、分野、地域、世代を横断する活動を行っています。その成果として、2020年3月には高齢ドライバーの安全走行を促進・啓発する「ハンドルぐるぐる体操」*4を開発しました。

*1 「ハローセーフティキャンペーン」に関する詳細はこちらをご覧ください

<https://www.nissan-global.com/JP/SAFETY/HELLOSAFETY/>

*2 「おもいやりライト運動」に関する詳細はこちらをご覧ください

<https://www.omoiyari-light.com/>

*3 交通安全プロジェクト トリトン・セーフティ・イニシアティブ - まち・生活・交通の安全な未来へ-

ToLiTon (Town, Life and Transportation) Safety Initiative

従来の交通安全の枠にとどまらず、「まち・生活・交通」を結び提案を目指すことから命名したプロジェクトです。

*4 高齢者交通安全「ハンドルぐるぐる体操」に関する詳細はこちらをご覧ください

<https://www.nissan-global.com/JP/SAFETY/HELLOSAFETY/TAISOU/>

「おもいやりライト運動」：

11月10日「いい点灯の日」の前後に、全国14地域（北海道帯広市、山形県山形市、神奈川県相模原市、新潟県新潟市、富山県朝日町（入善）

福井県敦賀市・越前町（鯖江）、香川県東かがわ市、高知県安芸郡、長崎県長崎市・松浦市・平戸市・江迎市、鹿児島県入来町）で合わせて約540人が路上で点灯呼びかけアクションを行いました。各地で特徴のある楽しい運動を繰り広げました。

また参加いただいた方々に後日お集まりいただき、「交通安全ラウンドテーブル」を開催しました。各地域の取り組み内容や課題を話し合うとともに、交流を深めていただきました。

日産グローバル本社ギャラリーでは、年間を通して、ミスフェアレディによる「おもいやりライト運動」のプレゼンテーションを毎日夕暮れ時に実施し



目次	CEOメッセージ	CSOメッセージ	コーポレートパーパス / ESG特集	日産のサステナビリティ	日産のSDGsへの貢献	ルノー・日産自動車・三菱自動車のアライアンス
環境	社会性	ガバナンス	ESGデータ集	本レポートの編集方針	GRI内容索引	投資家向け索引

ています。2019年からは、点灯呼びかけアクションに使うボードを掲げて説明をしています。

こうした活動を通じて、企業やNPO、クルマファンなどに理解と実行を促してきた結果、「おもいやりライト運動」は市民の間に着実に浸透しつつあります。



北海道帯広市とかちでの点灯呼びかけアクション



点灯呼びかけアクション参加地域

高齢者交通安全「ハンドルぐるぐる体操」:

この体操は、筋力と認知力を高めることにより、主として高齢ドライバーの安全走行を支援するために開発しました。

高齢者は運動不足になりがちなことから、徐々に運動機能が劣ってきます。運動機能が劣ると、クルマの運転機能にもさまざまな悪影響が出てくること、新潟大学（運動機能工学）の研究から分かってきました。体操は、血流を良くするリフレッシュ、少しハードな筋力アップ、脳を刺激する認知力アップの3つがあります。どれも覚えやすいように、3秒間4カウントで完結するリズムカルな動きの繰り返しで構成されています。

この体操は、クルマの運転前やお時間がある時などに、いつでもどこでもでき

ます。ハンドルを持たずに行うこともできますし、テレビや音楽を楽しみながら座ったままの姿勢でも一定の効果が期待できます。

高齢者と保育園児、大学生による「ハンドルぐるぐる体操」と、体操で使うオンリーワンのハンドルを皆で楽しくつくるワークショップの様子を入れた映像を制作し、Facebook、YouTube、Twitterにて公開しました。



ハンドルぐるぐる体操



ハンドル制作ワークショップ

目次	CEOメッセージ	CSOメッセージ	コーポレートパーパス / ESG特集	日産のサステナビリティ	日産のSDGsへの貢献	ルノー・日産自動車・三菱自動車のアライアンス
環境	社会性	ガバナンス	ESGデータ集	本レポートの編集方針	GRI内容索引	投資家向け索引

GRI103-3 GRI416-1

国際自動車連盟と交通安全のためのパートナーシップを締結

日産は、2014年、国際自動車連盟 (FIA) と世界規模で交通安全活動を推進していくパートナーシップを締結しました。このパートナーシップを通して、国連が提唱する「交通安全のための行動の10年」を支持するFIAの革新的な啓発活動「FIAアクションフォーロードセーフティ」キャンペーンのオフィシャルサポーターを務めました。

同キャンペーンでは、安全運転のためのルールを記載した「FIAゴールデンルール」を世界中で推進することにより、交通事故による死者を減らすことを目指しています。また、キャンペーン賛同者は、「FIAオンラインプレッジ」に署名をすることで、安全運転ルールの遵守を表明できます。

日産では「日産セーフティ・ドライビング・フォーラム」などで「FIA ゴールデンルール」や「FIA オンラインプレッジ」の周知活動を実施しました。

社会：社会との連携

日産は、クルマを取り巻く交通環境の情報を利用することで、より安全なクルマ社会を築くことができると考えています。官公庁や大学、他企業と広く連携しながら、より安全で快適なモビリティ社会の実現を目指していきます。

高速道路上の逆走を報知するシステムを開発

近年、高速道路での逆走が多発しており、社会問題となっています。日産は西日本高速道路株式会社 (NEXCO西日本) と共同研究を進め、GPSを活用した逆走報知ナビゲーションシステムを開発しました。ナビゲーション内部のプログラムにより、車両情報 (GPS位置、地図、車速など) に基づいた逆走判定処理を行います。逆走している可能性がある場合、音声とナビゲーション画像によってドライバーに注意を喚起します。2010年10月に発売した「フーガ ハイブリッド」に世界で初めて搭載。現在日本においては、商用車を含めすべてのカテゴリで選択可能となっています。また、逆走報知ナビゲーション技術のライセンスをパイオニア株式会社に供与しました。これによりパイオニア製のカーナビゲーションを利用するお客さまにも本機能の提供が可能となります。

目次	CEOメッセージ	CSOメッセージ	コーポレートパーパス / ESG特集	日産のサステナビリティ	日産のSDGsへの貢献	ルノー・日産自動車・三菱自動車のアライアンス
環境	社会性	ガバナンス	ESGデータ集	本レポートの編集方針	GRI内容索引	投資家向け索引

将来への取り組み

NASAの技術をベースに自動運転の人工知能(AI)をサポートする技術を開発
 一般道路での完全自動運転実現に向けた課題解決のため、日産では「シームレス・オートノマス・モビリティ (SAM: Seamless Autonomous Mobility)」と呼ばれるシステムを開発しています。自動運転車による判断が困難な場合に管理者が遠隔操作でルートを作成・指示することで、事故、路上の障害など不測の事態に直面した際でも、クルマを安全に誘導できる手段を提供します。

無人運転車両を活用した交通サービスの実証実験

日産は、株式会社ディー・エヌ・エー (DeNA) と無人運転車両を活用した新しい交通サービス「Easy Ride (イージーライド)」を共同開発しています。2018年3月には神奈川県横浜市のみなとみらい地区周辺にて、自動運転技術を搭載した実験車両に一般モニターを乗せて実証実験を行い、「Easy Ride」のサービス仕様の評価・確認を行いました。また2019年2月には対象エリアを拡大し、乗車地、目的地を自由に設定するなど、より実際のサービスに近い形で実証実験を実施しました。2020年2月には、中央省庁や地方自治体、交通事業者や地元企業など関係者を対象とした試乗会を実施しました。今後は無人運転環境でのサービスの検討や運行ルートの拡充、有人車両との混合交通下での最適な車両配備ロジックや乗降フローの確立、多言語対応などの検証を進め、2020年代早期に本格的なサービス提供を開始することを目指していきます。